

**ライザップと連携する健康増進事業
合計約120キロの減量に成功!**

2月3日、只見町とRIZAP（ライザップ）が連携する健康増進事業「イイからだづくりプログラム」の今年度最終回が保健福祉センターで行われ、受講生20人が参加しました。同事業は、町の健康課題である「肥満」の解消や「糖尿病」の予防、生活習慣の改善に向けて昨年度より行われているライザップの出張型プログラムです。受講生は、全8回に渡り食生活や運動に関する講義、筋力・柔軟トレーニングを受けながら自宅での食生活などにも気を配り、健康への高い意識を持って3カ月間のプログラムに取り組みました。



▲最終回は強度を増した筋力トレーニングを実施



▲受講生と大橋トレーナー（下段中央）

最終回は、体組成計で体重や筋肉量などを測定した後、これまでよりも強度を増した筋力トレーニングを行い、最後にこれまで皆さんを支えた大橋トレーナーから受講生全員に修了証が手渡されました。修了証を受け取った皆さんは、清々しい表情で「グループの皆がいたから最後まで頑張ることができた」「今後の生活習慣の改善に向け、継続して頑張りたい」などとプログラムを振り返りました。

今年度は、受講生全員で計「119キログラム」の減量に成功し、健康意識の向上や生活習慣の改善を受講生が身をもって経験することができました。

**「第7回全国海洋教育サミット」員中が優秀賞を受賞
小中学生が海洋教育の成果を発表**

2月4日、町内小学校の海洋教育成果発表会が朝日振興センターで開催され、町民の皆さんや関係者が参加しました。同会は、町内3小学校が一年間実践してきた海洋教育学習、そしてESD（持続可能な開発のための教育）の成果を町民の皆さんに発表するもので、毎年行われています。

当日は、各校の6年生が「観光」「防災」「まちづくり」などの観点から「只見町の未来」に関して学んできたことを発表し、児童たちの考えや想いを参加者に伝えました。最後に、来賓として参加した東京大学大学院の丹羽特任准教授と川上特任研究員より、全国海洋教育サミット



▲町民の皆さんや関係者も多く参加した



▲優秀賞に輝いた只見中学校の生徒たち（東京大学にて）

に向け、相手に伝わる発表の仕方や各発表内容の中で強調すべき部分などについて様々なアドバイスをいただきました。

2月15日、町内3小学校と只見中学校を含む、計66団体の皆さんが全国各地から参加した「第7回全国海洋教育サミット」（会場：東京大学）では、只見中学校が最優秀賞（1団体）に次ぐ優秀賞（2団体のみ）に輝きました。これは、中学校に限らず、小学校から培ってきた海洋教育の成果が広く認められたものであり、只見町全体としての受賞とも言える素晴らしい結果となりました。



▲各施設に周知チラシなどが設置された
(写真：保健福祉センター)

2月25日、全国各地で新型コロナウイルス関連感染症の感染拡大が続く状況を受け、只見町に「新型コロナウイルス対策連絡会議」(本部長・町長、副本部長・保健福祉課長)が設置されました。

2月末現在、福島県内における感染者の報告はありませんが、町が主催する不急かつ不特定多数の方が参加する感染のリスクが高い行事・イベントは、状況により延期又は中止する対応となります。

町民の皆さんにおかれましては引き続き、咳エチケット(マスク着用等)や手洗いなど、通常の感染症対策を徹底していただくようお願いいたします。

国内での感染拡大を受け 新型コロナウイルス 対策連絡会議を設置



▲県産スギ材で作られた物販コーナーやベンチが設けられている

2月6日、JR只見駅待合室が木の温かみ溢れる空間として生まれ変わりました。只見町観光まちづくり協会の事務所移転(昨年9月)により、回スペースは一時閉鎖されていましたが、リニューアルに合わせ、こちらにも事務所が再設置されています。

これは、県の補助事業を活用し、県建築士会山口支部の方々がデザインや工事を担当したもので、「つる細工」の網目が内装に表現されている他、只見農産加工企業組合「げんき村」(楡戸)のエゴマ油が塗装に使用されています。

観光案内や物販も実施していますので、ぜひお立ち寄りください。

県産材で木質化を推進 JR只見駅待合室がリニューアル



★脇坂さん(右)は、3/26~28に行われる「東京五輪聖火リレー」(県内ルート)只見町ゆかりのランナーです。

2月17日、合同会社ねっか(梁取)脇坂齊弘代表社員から町へ、JR只見線の利活用に役立ててほしいと「ねっか」「只見線ラベル」千本分、計10万円の寄付をいただきました。

JR只見線の応援を目的に、千本限定で販売されている『只見線ラベル』は、購入すると一本百円が町に寄付される仕組みになっています。

寄付金は、只見線全線運行再開に向けた町の関連施策などに活用される予定です。

また、脇坂さんより「二〇二〇東京五輪の聖火ランナー頑張ります!」との意気込みも併せていただきました。

只見線ラベルの販売により 合同会社ねっかが寄付



▲つる細工に取り組む児童たち

2月18~19日、伝統工芸を学ぶ「つる細工教室」が町内の小学校で開催され、各校の5~6年生(朝日小は3~4年生)が参加しました。児童たちは、各地区の民芸品保存会の皆さんから指導を受けながら、籐づるを使って鍋敷きなどを作りました。初めは、慣れない作業に苦戦していた児童たちも、時間が経つにつれてコツをつかみ、上手に作品を完成させることができました。

また、今年、東京学芸大学でつる細工の研究をしている学生2名と小柳知代准教授も参加し、児童たちと会話を楽しみながら、町の伝統工芸に触れていました。

小学生が伝統工芸を学ぶ 「つる細工教室」を開催